



ガラクタ

# 『我等苦多らぶそでい』

ひおか かがり  
緋岡 篝

## ●キャスト

岡崎 光	普通科三年ボランティア部員
山村 七星	普通科三年ボランティア部長
白浜 華恋	普通科三年
石川 倫佳	総合学科三年ボランティア部員
松丸 千映	普通科二年特編ボランティア部員
中田 鋭子	普通科二年ボランティア部員
乗杉 博士	ボランティア部顧問
剛力 叶	総合学科三年
相馬 蒼	卒業生

この作品は、光高校卒業生でフォルクロレ音楽家の野村涼馬さんに「Inspiration」をいただいて、創った作品です。

## #1 苛まれる私

暗闇の中、うつすらと照らし出される光。光、小刀を出す。

光 人、殺しちゃった……。

光、小刀をじっと見る。

光 嘘です。私、大嘘つきなんです。なんで、嘘ついちゃうんだろう。

光を取り囲む、想像上の友人たち、「嘘つき」と責め立てる。光、自分にナイフを突きつける。

野村涼馬・作「Inspiration」が流れる。

## #2 空回る私

ガーシュイン「ラプソディー・イン・ブルー」の冒頭。  
光、七星に懸命に話しかける。しかし、スマホに夢中の七星はそっけない。次々に友人たちが通り過ぎていく。光が話しかけても、皆、素っ気ない。七星が反応した途端、皆、笑顔になる。

## #3 必要とされる私

夏、第二回審査最終日のぴっかり高校三年四組の教室。七星、華恋、光が話している。

光 (嬉しそうに) じゃじゃーん、ポスター！ これで、一年生、入ってくるかなって…

七星 いいじゃん。ラインに流してみんなの意見聞く？

華恋 うん。こんなポスター貼ったって、ボランティア部に入りたい人が増えるわけないじゃん。

光 失礼だな！ ボランティア部、馬鹿にすんな！

七星 (光を無視して) そもそも、七星、なんでボラ部なんかに入ったの？

華恋 柄じゃないじゃん。

七星 受験に有利って聞いたから。

華恋 ずる。

七星 光もだよ、ね？

光 うん、私も受験のため！ 決まってるじゃん。

華恋 ずるくない？ じゃあさ、なんで、テスト期間中にそんなポスター描いてくんの？ 馬鹿じゃん。

光 息抜き。ほら、あるじゃん。勉強中に掃除したくなったり……

華恋 (光の言葉を最後まで聞かずに) てか、ボラ部に新入部員とが必要？

光 そりゃ、必要でしょ。

七星 あ、確かに。ボランティアって個人、個人の気持ちだよ。やりたい人がやればいいんだ。

光 ほんとだ。私、何やってんだろ。(ラップっぽく) 日本史やばいし。

華恋 (光をまじまじと見ながら) ボラ部って、そういうガラクタ多いもんね。

七星 うちの部がガラクタ？

華恋 あの総合学科の……口悪い、距離感おかしい子とか。

光 倫佳？

七星 サバサバしてて、私は嫌いじゃないよ。

華恋 ええ？ 二年生もなんかさ、マイペースで自由人みたいなやつばかりやん。

光 まあ、確かにどっちも自由だよ。でも、話したら結構面白いよ。

七星

華恋

七星

光

華恋の電話が鳴る。

華恋 (スマホを見て) 翼君だ! もしもし。

華恋、電話に応答して、退場。

光 七星、二人だけで話したいことがあるんだけど、いい?

七星 なに?

光 華恋には、ちょっと気を付けた方がいいと思う。

七星 どういうこと?

光 私、見ちゃったんだよね。華恋が、昨日、このナイフで、(リスカの真似)

七星 華恋がリスカ?

光 しっ! 私もまさかかって思った。昨日、中庭で草取りの分担のエリア分けしたじゃん。その時、華恋が隠したナイフの入った缶、見つけちゃったんだよね。

(回想) 七星、光、熊手の柄を使って、中庭に線を描いている。  
華恋、中庭の石に腰かけている。

七星 ごめんね、華恋。もうちょっとで終わるから。

光 これやっとかないと、明日の部活がやばいからさ。

七星 上でテスト勉強しながら待ってて。

華恋 一人で待つのが嫌だからここで待ってとく。

七星 ええ?

光、華恋のすぐ傍で線を引く。

光 (熊手に缶が当たって大きな音がする) え、何、これ。

華恋、走り出す。

光 え、ちょっと、華恋!

光、缶の中からナイフを取り出す。(回想 終わり)

七星 華恋に聞いたの?

光 言えないよ。でも、華恋が座ってた岩のすぐ傍にあったし、新しい傷が数本あったから、間違いないと思う。

七星 でも、なんで、中庭でリスカ。

光 そこが華恋のやばいところでしょ。こじらせた承認欲求。際限なしに甘

七星

光

七星

光

七星

光

七星

光

七星

光

七星

華恋

七星

光

華恋

えてくるじゃん、華恋って。私だったら、ちょっと距離を置かな? 距離を置くとか逆にやばくない? っていうか、私、直接華恋に聞くわ!

いやいや、やばいって! リスカって、聞いてほしくてやってるんだから、聞いたらもっとエスカレートするらしいよ。

(ひとしきり考えて) でも、華恋は、リスカなんてしないと思う。言いたい放題言って、やりたい放題やってんじゃん。どこにリスカする要素あるの?

七星って本当いい人だよ。人間の心の奥底なんて、そんな簡単には見えないんだよ。

私を表面しか見ない馬鹿みたいに言わないでよ。

(焦って) 七星がすごい良い人だって言いたかっただけ。でも、華恋はさ、めちやくちやかまちよじゃん。人の気を引くためだったら、なんだってするんだよ。正直、七星が悪影響を受けるんじゃないかって、本当に心配。

私は私だから。いや、でも、この前、華恋がね、七星がいないときに……

(窓の下を見て) ああの子、水筒抱きしめてる。テントウムシの水筒カバーって。誰、あれ? うちの学年?

ああ、あの子は確か、総合学科の剛力叶くん。うちの学年の子。三年にもなってる、なにやってんの!

彼、悲しい病の持ち主なの。なに、悲しい病って?

水筒しか愛せないの。彼はいつも休み時間、あの岩のそばで、水筒と一緒に、お昼ご飯を食べて、語り合ってるの。そっとしておいてあげて。

そんなに抱きしめたら、窒息するよー? しー!

華恋が二人の間に入ってくる。

華恋

七星

光

華恋

七星! 翼くん今日じゃないと無理って。特進高は明日考査が終わって部活再開するんだって。

ごめん、華恋。七星はボラ部があるから。華恋、あんた大丈夫なの?

大丈夫なわけじゃないじゃん。大丈夫なわけじゃないじゃん。七星、しっ!

大丈夫なわけじゃないじゃん。もう、七星がついてきてくれなきゃ死んじやう! 私が死んでもいいんだ。

じゃあ、来てよ。絶対一人じゃ無理だから。ねえ、七星、一生のお願い

い!

光 私たち、部活が。

七星 私、一応、部長だからさ。

華恋 乗杉なんて、無視、無視! 「お前え……」

光 (乗杉をまねて) 「お前なあ、ボランティアをなんと心得る? 調査書の飾りじゃないぞ!」名前だけのボランティア部長なんて俺は絶対許さない!」って。

華恋 誰も聞いてないのにね。

光 え?

七星 でも、たまにしかない部活、さぼるわけにはいかないから。

華恋 そうだよな。七星、部長だもんね。私なんかより受験の方が大切だもんね。私が、初デートで大失恋して死んじゃっても、関係ないよね。分かった。頑張ってる。頑張って行く。頑張ってね! (とぼとぼと去る)

七星 光、やっぱ、私、ほっとけない。

光 え?

七星 お願!

華恋 七星、大好き!

七星 七星、大好き!

七星 七星、大好き!

七星 七星、大好き!

七星 七星、大好き!

光 七星! うわ、剛力くん、まだやってる。

七星 七星、大好き!

#5 謀られる乗杉

ぴっかり高校中庭。乗杉が、七星を除くボランティア部員の前で語っている。

乗杉 お前らなあ、聞いてんのか? 相馬って絵描きの卒業生が中庭を見たいんだと。高校時代になんかあったんだろ。綺麗にしとけよ!

乗杉 乗杉、遅れて登場。

光 草取りですね。

乗杉 ちよっと待った。山村七星は部長なのになぜここにいない。お前ら、ふざけんなよ。

中田 私たちに言われても。

乗杉 全体責任だ! ボランティアってもんはなあ……。

光 女性の介助に行ってます。

乗杉 は? 聞いてないぞ。

光 今日、急に依頼が入ったんです。

乗杉 顧問も通さずになんだ。

光 (焦って) 先生、よく言ってるじゃないですか? 自発的な意思で社会に貢献する、それがボランティアだって。だから、七星は自発的に行動したんです。

乗杉 それは、良い心がけだな。

光 はい。だから、今日、私たちも四人だけで頑張ります!

乗杉 おう! (去ろうとして光に軍手を渡し) 差し入れた。俺の奢りだ。

光 ありがとうございます。

乗杉 乗杉、退場。

光 乗杉、退場。

#6 重ねられる戯言

乗杉 差し入れて何? 乗杉、なかなか気が利くじゃん。(軍手をまき散らして) は? なんだ、軍手かよ。ケチ! (軍手を渡し) はい、田中さん。(不機嫌そうに) 中田です!

中田 あ、中田さん。はい、光。(光に軍手を投げ渡す)

乗杉 光先輩、乗杉の説教地獄から救ってくださいありがとうございます。

光 あ、あの嘘、最高!

乗杉 何言ってるの、嘘じゃないよ。

光 ええ? 嘘でしょ? 七星、どうせ、華恋と遊びに行ってるでしょ。

乗杉 違うよ。社会福祉協議会って知ってる? 個人で登録しとけばね、いつでもボランティアできるの。

光 乗杉、退場。

乗杉 乗杉、退場。

光 乗杉、退場。

乗杉 乗杉、退場。

光 乗杉、退場。

乗杉 乗杉、退場。

光 乗杉、退場。

乗杉 乗杉、退場。

光 乗杉、退場。

中田 光先輩が前、参加してたやつですね。  
 倫佳 (光に近づき) ええ、そこまでする？  
 光 (焦る)  
 光。いつにも増してまんまる。顔、まんまるまん！  
 皆さん、今日は集まっていたいて、ありがとうございます。部長の七星の代理を務めます、岡崎光です。  
 光、どうしちゃったの？ 部長代理だからって力入りすぎだよ。  
 えっと、昨日、せつかくこの中庭を部長と一緒に五分分したんですけど……  
 倫佳 で、草取りしたらいいんでしょう？  
 光 あ、うん、お願い。じゃあ、私、手網取りに行ってくるね。  
 倫佳 自分の……  
 松丸 (松丸に気づいて) うわあああ！  
 倫佳 することは！  
 松丸 いたんだ、松丸さん。  
 倫佳 存在感ゼロ。  
 光 自分のエリアの草取ってくれる？  
 松丸 ではメジャー借りてきます。  
 倫佳 メジャー？ いやいや、もう線引いてるよ。  
 光 もう線引いてるって言うてんだろ！ 聞いとけ！ 何のためにその耳ついでんだよ！  
 倫佳 言いすぎ。  
 光 (去る松丸を目で追って) あいつ……。  
 倫佳 松丸千映さん。二年生の特編クラスの子。  
 光 松丸千映、マジに測り直すとか、頭いいんだか、悪いんだか、分かんないよね。え、ちよっと待って。今日、七星、来ないんだよね？ あと一人分誰がやるの？  
 倫佳 みんなでカバーしながら進めていけばいいんじゃない。  
 光 ええカバー？ 最後までいなきゃなんないじゃん。  
 倫佳 それがボランティアの心でしょうか？  
 中田 手網、私が取って来ましようか？  
 光 いいよ。私とってくる。  
 光、退場。

倫佳 水筒がどうしたの？  
 中田 水筒がない！  
 倫佳 背中についてるよ！  
 中田 あ、(水筒に気付いて草取りに戻る) 今日送られてきたポスター、好きでした。  
 松丸、メジャーを持って帰ってくる。  
 倫佳 そこに戻るんだ。光のポスターね。普通、試験最終日に描いてくるか？  
 中田 無駄に無理しすぎだよな。  
 倫佳 そこが光先輩。  
 中田 ダメだよ、折れるって。私みたいに適度に抜かないと。  
 倫佳 倫佳先輩は抜き過ぎです。  
 中田 あんた、言うねえ。  
 倫佳 それに倫佳先輩って、人の話取っちゃいますよね。  
 中田 うるさい！ 先輩だぞ、私は。  
 倫佳 一年、生まれが早いでマウントって良くないですよ。  
 中田 しゃべってないで、草取ろう。  
 倫佳 私、やりますよ。  
 中田 よーし、草取ろう！  
 倫佳 相馬って言うてましたよね？  
 中田 いや、草取ろうって言ったの。  
 倫佳 今日来る卒業生！(スマホをいじって) あ、これが。そうま、そう。イラストレーターですね、うちの高校出身。  
 倫佳 そうまそうって男かな？  
 光、戻ってきて、むっとする。  
 光 作業は？ なんでスマホ？  
 中田 あ、調べてます。  
 倫佳 相馬って卒業生検索してるの。  
 中田、光にスマホの画面を見せる。  
 光 青い。  
 倫佳 すごい！ この青、いい！  
 中田 「そう」だけに。この「そう」って草冠に倉、青って意味ですよね？  
 倫佳 心臓をえぐられそう……。  
 光 まだ若いんだ。四個上。  
 倫佳 すごいね。絵を仕事にできる人っているんだ。

中田 最近は素人絵師も多いですけどね。

倫佳 なんて私らが相馬蒼の郷愁のために草取りしなきゃなんないんだよ！  
ノスタルジー  
 確かに。

中田 これ夕方までに終わるのか。

倫佳 計画的に全校行事でやるべきだったんですよ。ボランティアの域超えてます。

中田 乗杉、あの適当蟹股眼鏡野郎！

倫佳 せめて、校務技師さんに電動草刈り機の作業を頼むべきでしたよね！

中田 お前なあ、ボラ部はお前の尻ぬぐい部じゃないぞ。

倫佳 そもそもなんで中庭が日頃の掃除区域に入っていないわけ？

中田 びっくり高校の無法地帯。

倫佳 いっそのことストライキして帰りますか。

中田 うん、ほっぽり出して帰る！

倫佳 帰りましょう。

中田 いいね、田中さん！

中田 中田です。

光、二人の乗杉に対する悪口を聞きながら、おろおろしている。

光 あ、そうそう、思い出した！ めっちゃ素敵な話をみんなにシェアしたくて！

倫佳 なに、素敵な話って！

光 明日の講演会で講演してもらおう、相馬って卒業生？

中田 相馬蒼。

光 そう、相馬蒼。その人の話がめっちゃ感動的なの！

倫佳 聞きたい！

光 これは僕が高校三年生の時の冬。私、相馬さんね。ちよつと倫佳、震えながら手動かしとして。

倫佳 任せろ！

倫佳、ムーミンのニョロニョロのように手を震わせる。

光 違う！ それじゃムーミン谷のニョロニョロじゃん。じゃなくて、震えながら絵を描いてんの。相馬さんの先輩が。

中田 高校三年でも先輩が学校にいらっしゃるって、四年制ですか？

光 違う、この学校！ 高校二年生の冬でした。

倫佳、震えながら絵を描く仕草をする。

光 中庭で冷たい風に髪をなびかせながら、凍る手で懸命に筆を走らせる姿

倫佳 に、はっ！ 相馬さんは一目惚れしてしまったの。それから僕は、あ、これ、相馬さんね。少しでも先輩に近づきたくて、先輩の隣で絵を描き始めた。そしてバレンタインデー。(倫佳に)「あの、先輩！」

倫佳 (自分を指さし) あ、私？「なあに？ そんな大声出して。相変わらず、まんまるね！」

光 今、相馬さんだから！「僕、(息を混せて)へ、描いてきたんです。」

倫佳 「屁？ (屁をこく仕草をして)ぷっ。屁なんて、描けるの？ 透明でしょ？」くさっ。

光 汚い！ 屁じゃない、絵！ ぴくちやあ！

倫佳 「え、ぴくちやあを私に？」

光 「はい！ よかったら、これもらってください！」

倫佳 「絵、下手ね。」

光 「僕、先輩みたいに絶対絶対うまくなります！」

倫佳 「待ってるわ！ 君のデビュー作はいただききよよよよ。」

光 「待って！ でも約束してください！」

倫佳 「なあに？」

光 「一年後の僕の卒業式に、ここで絵を交換しませんか！」

倫佳 ねえ、これまだ続くの。

中田 茶々入れんな。

倫佳、中庭を殴る仕草をする。

光 (無視して続ける) でも、その約束は果たされなかった。僕は、その朝、テレビのニュースで、その約束が果たされなかったことを知った！

中田 何があったんですか？

光 先輩は、突然の大雪で滑ったトラックにひかれそうになった子猫を守って亡くなってしまった。「先輩……！ 嫌です！ 先輩のいない世界は色を失ってしまった……！」

中田 だから、相馬さんの絵はブルーなんですわね。

松丸 相馬、ブルー……。

光 そう、それ以来、相馬さんは永遠の青い世界に囚われているの。それこそ相馬ブルー！ 蒼い青。

松丸 ブラボー、ブラボー！ 相馬蒼、世界一！

光 で、で、で、今回原点復帰するためにこの中庭に帰ってくるってわけ！でも、そんな美しい思い出の中庭が、今こんな状態だって知ったら、どう思う？

中田 やばいっすね。

倫佳 嘘でしょ。それ、出来すぎだよ。

光 嘘じゃないよ。私、聞いたもん。

中田 誰にですか？

光 言えないの。その人は、相馬さんに禁断の片思いをしていた人なの。いつも二人のやり取りを、あの渡り廊下から、じっと見守っていたんだって。

松丸 感動しました！ 中庭、万歳！

中田 禁断の愛って、まさか教師？

倫佳 え、まさか、乗杉？ ……それじゃ、男同士か。

中田 禁断ってそういうこと！

倫佳 乗杉の見方変わっちゃう！（倫佳と中田、顔を見合わせて笑い合う）

光 いいんだよ。人の感じ方は人それぞれ。私は、倫佳が、心の中の誰にも触れられない深い柔らかいところに、優しい人間愛を持ってるって知ってるから。

倫佳 光には知られてないと思う。

中田 ボランティアをやるうなんて人はね、みんな持ってるの。そんな綿毛のようなふわふわであつたかい心！

倫佳 へっ、なんじゃそりゃ。

中田 倫佳先輩、なんでボランティア部入ったんですか？

倫佳 受験のため。

中田 やっぱり。光先輩は？

光 私がボランティア部に入った理由はね、同じ穴の貉！

中田 違います！

光 残念ながら、同じなの。

倫佳 ほらね。

松丸 嘘つき！

光 え？

松丸 あのポスターは？

中田 そうですよ。あんなポスター描ける人が、受験のためなわけありません。

倫佳 出たあ、綺麗事ポスター！

光、苦笑い。

松丸 （突然立ち上がって）自分は！

一同 うわああ！

松丸 入学した理由言っただいですか？

一同 どうぞ。

松丸 世界では、悲しいことが、起きています。

倫佳 大きく来たね。

松丸 ちっぽけな自分の存在に打ちのめされたんです。

倫佳 打ちのめされたんだ。

松丸 Action! ……しないといけないなって。

中田 くしゃみかと思った。

光 松丸さんの気持ち、すごい分かる。生きる意味ってそこにあるんだと思う。何かをして、ありがとって言ってもらえたら、私もここにいるって思っただけだよ。

松丸 やっぱり。

倫佳 必殺自己満じゃん！

松丸 自分も、自己満です。でも行動せずにはいられないから、やる。やります！（草取りに戻る）

倫佳 頑張れー。

中田 うわあああ！

光 どうしたの？

中田 スマホ！

倫佳 スマホがどうしたの？

中田 スマホがない。

倫佳 また？ 背中じゃないの？

中田 ない！

光 私、電話しようか？

倫佳 あ、私持ってるよ。

中田 いいです、自分でやります。

倫佳 うん、わかった。え？

中田 自分の番号分かんなかった。

光 私、分かるから。ちよっと待って。

中田 お願いします。

倫佳 ちよっと待って。これ、私がおかしいの？

光 倫佳、どうしたの？ 大丈夫？

中田 いや、その、耳につけてるやつ。それは何？

倫佳 スマホですけど。あ、スマホがありました。ども。（草取りを再開する）

光 ……中田さん。

倫佳 おまえら、大丈夫か？

光 とりあえず手動かそう！

中庭、岩の裏側。剛力が告白練習を続けている。

剛力 #7 見た過ぎる思い

（キャンバスを見せながら）見たいって？ だるめ、恥ずかしい！ やだやだやだ、絶対ダメ！ 僕が好きだっただけのことバreshやうでしょ？

岩の陰から、ボランティア部の三人が覗く。

倫佳 ゴーリキー、何一人で悶えてんの？  
光 水筒しか愛せないの。  
中田 え、水筒しか愛せない。  
光 (ものすごく嬉しそうに) 対物性愛っていうんだけどね、彼は人間が愛せないの。いつもああやって水筒と一緒に語りあってるの。  
剛力、気づかないまま告白練習を続ける。  
剛力 違うなあ。(スマホを操作し直す) 僕のキャンバスに映る君は、いつも静かに光を纏っている。そう、まるで空に瞬く星のように。  
岩の陰に隠れボランティア部の三人がこそこそと話す。  
倫佳 もっとシンプルに告白すればいいのに。  
光 剛力君は感性が豊かなんだよ。  
中田 表現にこだわりがあるんだ。面白い。  
倫佳 私は単刀直入に言われたほうが嬉しいけどな。  
中田 相手は水筒で、倫佳先輩じゃないんで大丈夫ですよ。倫佳先輩を相手にする人はこの学校にはいません。  
倫佳 (キレて) 失礼な奴だな。  
剛力、三人の存在に気付く。  
剛力 (中庭を叫びながら回る) うわあああああああ！ あの、僕、ぼ、ぼ、ぼ、ぼ、ぼ、ぼ、ボランティア部に入りたいんです！  
倫佳 え、三年で？  
中田 残り九か月。  
倫佳 美術部、引退したんで。  
剛力 さては受験対策だな？  
倫佳 先輩も同じじゃないですか。  
中田 嬉しい！ 三年生でも全然大歓迎！  
光 入部の動機は？  
剛力 ここ、恋人の聖地なんですよ？  
光 え？ (動揺して)  
剛力 さっきの話、聞いてました。相馬蒼さんの悲恋の場所。僕も同じ思いです。  
ああ！  
光 一緒に綺麗にしてもいいですか？  
剛力 喜んで。  
光 嬉しいな！  
光 じゃあ入部記念に写真撮る？

剛力 え、いいんですか？  
光 あ、ごめん、剛力くんのスマホ使ってもいい？  
剛力 はい。写真はどうやって送れば？  
中田 部活ラインあります。私、繋いどきますね。  
倫佳 じゃあ、私も。  
剛力 (中田とラインを交換して) ありがとう！  
倫佳 はい。(剛力にスルーされて) えっ。  
剛力 じゃあ撮りますね。  
倫佳 (剛力が水筒を持つてくるのを見て) それも一緒に映るんだ。  
剛力、さりげなく、光と中田の間におさまる。  
倫佳 今日も元気に？  
一同 (ポーズして) 草抜き。  
一同、ポーズをとるが、剛力だけ、髪をセットしている間にシャッターが切られる。  
光 よし、じゃあ早速だけど、草取りお願いします！  
一同 お願いします。  
剛力 もう一回！ (諦めて) はい。写真、送りますね！ (写真を見てショックを受けるが、諦めて中田に送る)  
倫佳 あ、届いた。  
中田 届いた？ よかった。  
剛力 (軍手を渡して) はい。  
倫佳 ありがとうございます。  
倫佳 敬語じゃなくていいって。  
中田 (携帯を見て) あっ。  
光 どうしたの？  
中田 いや、別に。  
倫佳 気になるなあ、見せてみる！ あ、インスタ。  
#8 漏れる秘密  
七星と思われるインスタのストーリー。  
(ユーザー名: 7stars)  
大量のすし皿を並べてポーズする高校生。顔ははっきり見えない。  
七星 寿司食べてえ。寿司食べてえ。寿司食べてえ！  
倫佳 ……スシラー？ これ、うちの部活着だ。  
中田 ななすたーず？ 七つの星！

倫佳 七星だ。でも人助けに行ってるんだよね？  
 光 あれ、あれ？ ほんとか。どうしたのかな？ あ、そうだった。今日、  
 介助することになってる女性が、久しぶりに外出許可が下りて、思い  
 出のお寿司屋さんに行くことになってるって言ってたわ。  
 倫佳 スシラーってそんな昔からやってるんだ。

光、焦る。

光 スシラーじゃないかも。えっと、思い出のお寿司屋さんの名前、なんだ  
 っけ？

中田 (スマホを見ながら) 創業は一九七五年ですね。  
 光 でしょ。やっぱり、スシラーか。そこは、初めてのデート場所だったら  
 しいんだよね、貧乏学生と女子高生が肩を並べてかっぱ巻き。

松丸 ブラボー！  
 (泣きながら) ボランティア部には愛があふれてますね。  
 剛力 さすが部長でしょう？ 私は七星を誇りに思うわ！

倫佳 なんて泣いてんの？  
 剛力 感動的じゃないですか。

#9 滲み出る本音  
 インスタの投稿。

中田 え、何これ？  
 つくつくぼうし、無償奉仕、草ぼうぼうの中庭奉仕。抜け目ないし、口  
 先だけだし、やっているのは私だし。

倫佳 ルース？ 誰だこれ。  
 剛力 ルーチェかも？

中田 ルーチェ、イタリア語だ。ラルーチェデミケランジェロって動画で見ま  
 した。

剛力 あ、観た？  
 中田 はい。

倫佳 ルーチェ？ 中庭奉仕って私らと一緒にじゃん。(中田を指さす) え？  
 中田 違いますよ。

倫佳 (剛力を指さす) え？  
 剛力 僕なわけじゃないじゃないですか。  
 SNSって罪ですよ？ こうやって、疑心暗鬼にさせるんです。誰も  
 信じられない！

剛力 ガラクタ、ガタガタ、不満過多。ガラクタなのにボランティア？ 困っ

た、ガラクタ、あなた方。

中田 なんかうまいですね。

剛力 言葉選びが秀逸！  
 中田 ちよっと待て！ これ、ひどくね。(許せん！ ガラクタって……。み  
 んなを見回したのち、中田の首を絞めて) 私のどこがガラクタなんだ  
 よ！

中田 うーん。ガラクタだらけだなあ。

倫佳 は？ ガラクタだらけ？

中田 完璧なガラクタです！  
 倫佳 犯人は田中さん、あなたですね！  
 中田 中田です！  
 倫佳 わざとだよ。

中田 そういうところ！  
 倫佳 はあ？

中田 ガラクタ！  
 倫佳 やっぱ犯人はお前だ！  
 中田 だから違いますって。

倫佳 証拠見せてみる！  
 中田 やってない証拠見せるのって難しくないですか？  
 倫佳 お前か？

剛力 だから違いますって！  
 光 もういいからさ、早くやろ！  
 倫佳 あれ、そういえば、あの二年の特編の子いない？

光 松丸さん？  
 倫佳 松丸さんって？

剛力 メジャー取りに行ったよね。  
 光 いや、でも、あの後いたじゃん。

倫佳 剛力、スマホを確認する。

剛力 え、さっき撮った写真には知らない子が映ってる。  
 中田 じゃあ、写真撮影の時にはいたんだ。

光 どこ行っちゃったんだろ。  
 中田 あの子よくいなくなるって、特編の子が言った。

倫佳 これさ、ワンチャンあの子が書いてる説ない？  
 剛力 会ってみたいかも。

光 もう松丸さんはいいからさ、早くやろう！  
 倫佳 松丸千映かあ、正体暴きたくなってきたぞ、ルーチェ。

中田 松丸千映。ま・つ・ま・るーちえ。

中田 松丸千映。ま・つ・ま・るーちえ。

倫佳 まつまルーチェ！ うわぁ、絶対そうじゃん。松丸千映！

松丸、草を抱えて出てくる。

松丸 何ですか？

光 いたんだ、松丸さん。

倫佳 (抱えている草を見て) 草取ってたの？

松丸 はい。

光 ごめんね、姿が見えないから、どっか行っちゃってるって思ってた。

倫佳 (草の中から靴下を見つけて) げ、靴下？ (ニヨロニヨロのぬいぐるみを見つけて) え、なんで、ニヨロニヨロ？

中田 犯人はあなたです。

倫佳 私捨てないから。

松丸 あっちひどいんです。

倫佳 あ、購買近いからねえ。草ぼうぼうで見えないと思って、ガラクタ投げ込んでんだよ。

中田 やっぱり。犯人はあなたです。

倫佳 違うって。

光 ほんとね。ありがと！ もう手網いっぱいだね。松丸さん捨てに行ってくれる？ あ、捨てるどころ、分かんないか。私と一緒にこー。

光、松丸を連れて、退場。

倫佳 松丸千映、切れ者だな。

中田 ガラクタの現物から部員たちのディスプレイへの連想、やりますね。

剛力 なかなかのセンス。

倫佳 そして神出鬼没なんだよ。ずっとこの裏で草取ってた？ 気配ゼロだからね。

中田 それより、私たちが頑張らないと。相馬さん来ちゃいますよ。

倫佳、中田、剛力、草取りを再開する。

#10 現れる相馬

倫佳 この草！ 長っ！ (草を中田の方へ飛ばしてしまう)

中田 ちょっと散ったんですけど！

倫佳 あ、ごめん。一本、二本、三本、四本、五本……

相馬がうろろと中庭を歩いている。

中田 (小声で) あ、あ。

剛力 何？

中田 誰？

剛力 (自分のことと思ひ) 三年七組十番剛力叶。口に十とかいて、かなうです。

中田 違う、あれ！

剛力 誓う？ 僕に？ えっ、何を？

中田 (相馬を指さして) あれ！

剛力 (相馬を見つけて) 誰？

中田 もしかして、相馬さん？

倫佳 相馬蒼って、男でしょ？

剛力 ということは、見えてはいけないもの？

倫佳 相馬さんの恋人？

剛力 ぎゃあああ！ 助けて！

松丸、光、戻ってくる。

倫佳 光、やばいよ、相馬さんの恋人！

光 相馬さんの恋人って、もう死んでるって。

倫佳 だから、やばいじゃん。

松丸 先生ー！ (退場)

中田 私、幽霊は信じません。(南無阿弥陀仏と言ひながら、十字を切る)

光 え？ 単なる不審者じゃない？ 幽霊とかじゃなくて。

剛力 どっちにしろやばいでしょ。

倫佳 私、話してみる。

倫佳、熊手を持って相馬に近寄る。

倫佳 あ、どなたですか？

相馬 可愛い。

倫佳 可愛い？

中田 やっぱり女性の声ですよ？ 怪しい。

倫佳 もしかして、あなたは、スナフキン！

光 倫佳、何言ってるの。あんたが変だよ。

相馬 よく言われる。

倫佳 なわけないでしょ！ ハーモニカとギターはどこよ。

乗杉、刺股を逆にもって登場。

松丸 先生呼んできました。

乗杉 学校をなんと心得る！ (生徒たちに) お前ら、危ないから下がってろ！ このやろ、このやろ！ (剛力を刺股でつつく)

剛力 僕、三年七組十番剛力叶です。口に十とかいて……  
 光 先生、何やってるんですか。新入部員です。  
 中田 剛力先輩、逃げて！  
 剛力 うん！  
 光 あっちのスナフキンです！  
 相馬 (相馬に) そのフナスキン、生徒から離れる！ 石川、戻ってこい。  
 相馬 そのままゆっくり後ろだ。  
 相馬 もしかして、私？ (刺又をつかんで、乗杉の腹を押す)  
 相馬 (刺又で腹を押されながら) そうだあ！  
 相馬 はい、相馬です。  
 相馬 えええええっ。  
 一同 え、なんで、女？  
 光 今は多様性の時代だから。  
 中田 え、そういう感じですか？  
 剛力 身も心も恋人のままになりたいってこと？  
 中田 そう、憧れの先輩と同じ女になったってこと！  
 剛力 感動しました！  
 松丸 手を挙げる！ 多様性の時代だからって俺は絶対許さない！  
 乗杉 乗杉、相馬さんを攻撃してる。  
 中田 可愛さ余って憎さ百倍ってこと？  
 剛力 相馬さんが女になったことが許せないんだ。  
 倫佳 性別を越えて、愛しましょうよ！  
 松丸 先生、相馬さんです。  
 光 俺に任せろ。  
 乗杉 すみません、事務室通らずに来ちゃったから。  
 相馬 なんだその凶器は！？  
 相馬 凶器？  
 相馬 なに、愛想振りまいてるんだ。  
 乗杉 そんな言い方しなくても。  
 中田 昔、好きだったくせに。  
 倫佳 卒業生です。  
 光 卒業生？  
 乗杉 明日講演してもらおう、相馬さん。  
 光 え？ 相馬さん？ (よれよれと座り込む)  
 中田 気づいてなかったの？  
 倫佳 性転換のせいじゃない？  
 倫佳 先生ですか？  
 相馬 相馬さんまでとぼけたふり？  
 倫佳 はい。  
 相馬 ははは。ユニークな方ですね。

中田 他人行儀な。  
 光、おどおど見守っている。  
 相馬 でも、その刺股の使い方だと、先生が不審者ですね。  
 乗杉、慌てて刺股を反対に戻す。  
 乗杉 あ、ちよっと、ふざけてみました。  
 倫佳 乗杉、調子乗りすぎ！  
 中田 愛は人を狂わせるから。  
 乗杉 お前ら、騙されただろう。  
 乗杉 調子に乗って刺股を振り回し、近くにあった木を折ってしまう。  
 光 あ、折れた！  
 倫佳 折った！  
 乗杉 (相馬に) いやあ、夕方だと思ってたんで、まさか、相馬さんだとは思いませんでした。  
 倫佳 好きなら好きって言えばよ！  
 相馬 (腕時計を見て) 十四時ではなかったか。すみません。  
 中田 大人の事情って感じですね。  
 相馬 はは、四時のつもりでした。  
 相馬 出直しましょうか。  
 乗杉 いえいえ、全然、大丈夫です。このひどい状況で良ければ。  
 相馬 卒業記念樹のヒメリンゴさえあれば、大丈夫です。  
 乗杉 ああ、記念樹。いや、見えるかな。草、ぼうぼうですからね。……記念樹？  
 相馬 はい。  
 相馬 記念樹？  
 相馬 記念樹。  
 相馬 木？  
 相馬 はい。ヒメリンゴの木。確か、平成三十年のプレートがあったと思います。  
 乗杉 草ぼうぼうで枯れちゃったんじゃないかな。  
 松丸 嘘つき！  
 一同、顔を見合わせる。  
 光 先生、木って。

松丸、乗杉の折った木を持って乗杉の横に立つ。

松丸

はい。  
うわっ、うっ！（腰をおさえて）

光

先生、卒業記念樹、折っちゃったんですか？

乗杉

いや、まだ、そうと決まったわけではない。  
あ！ここに、平成三十年卒業ってプレートがある。

光

ほんとだ。  
はは、はは、はは、はははは。すみません。

相馬

そんな簡単に折れちゃうなんて…  
枯れ気味でしたね。

松丸

嘘つき！  
発見だな。記念樹って永遠のものって思い込んでました。

相馬

この世に永遠のものなんて、存在しないんですよ！ はっはっ……。  
「永久に変わることがないもの、それは変化だけである」バイ、ヘラク

乗杉

Reitros。  
むかっ！  
乗杉、痛い！

中田

好きな人に良いところ見せたいんですよ。  
ちよっと、校長に報告してきます。それ、いただいてもよろしいでしょ

相馬

うか？  
どうぞ。  
すみません。

乗杉

乗杉、かっこつけながら退場。生徒たち、笑いをこらえる。

倫佳

あわれ乗杉。良いところなし。

中田

再び失恋！ って感じですね。

相馬

このあたりかな？  
絵、ヒメリンゴだったんですか？

剛力

うん、ヒメリンゴ。  
最低！

松丸

形見のヒメリンゴになんてことを。

相馬

形見か、すごい言い方するね。  
相馬、マイスコップを出して掘り始める。光以外の生徒たちは固まってこそこ

剛力

そと話し合う。  
（自分たちだけで）もしかして、相馬さん、恋人を掘り出そうとしてい

るんじゃない？

倫佳

掘り出す？

光

そんなわけないじゃん！  
止めなきゃ！

相馬

掘ったらまずい？  
いやいや、全然大丈夫です！  
なんで？

光

私、相馬さんの絵、好きです。実は、小学校のころ、相馬さんの絵を見て、一目惚れしたんです。真っ青な青！ なんてかかんないけど、心

相馬

惹かれるんですよね。  
……何年生？

光

三年です。  
なら、四つ違いだよな？ 私、絵を仕事にしたのは、高校卒業してから

相馬

だから、小学生はちよっと早いかな。  
……あ、いやいや、相馬さんの絵って、なんか懐かしい感じがあって、

光

すごい昔に見た気がしてたんですよ。あとあと、相馬さんの絵って、  
私にとっては、明るい空のようで、すごく前向きになりました。

倫佳

明るい空？  
どちらかと言うと群青。

中田

え？ そうなんだ。人の感じ方っていろいろだね。私の作品って、蜘蛛  
とか百足とか蟻とかえぐいものだらけだけど、へえ、前向きになれる人

光

もいるんだ。ありがとう。  
あ、はい。あははははは、とにかく、すごい好きです。

#11 蘇る記憶

倫佳

まだ掘ってるよ、腐った骨とか出てくるのはちよっと。  
ダメです！ 二人の愛を壊さないで。

松丸

ないな！

相馬

そんなちっぽけなスコップじゃ掘り出せませんよ。  
ちっぽけか？

中田

もしかして、あの缶？ え、あれ、タイムカプセルかなんかだったんで  
すか？

相馬

おお、ビンゴ！ そうタイムカプセル。これぐらいの缶の。  
タイムカプセル！？ 良かったあ。めっちゃおぞましい光景想像してた

倫佳

よ。  
そうですね！ 最初から死体を埋めた設定なんてありませんよね？

中田

ごめん。  
なんで光分かったの？ タイムカプセルって。

光

あ、勘、勘！

松丸 勘！ 缶だけに！  
 剛力 もしかして絵を埋めてたんですか？  
 松丸 ラブレターとか？  
 倫佳 バレンタインのチョコ？  
 中田 第二ボタン？  
 相馬 みんな、恋バナ好きだね。  
 相馬 だって、相馬ブルー！  
 光 ふふ、私ってそんなイメージ？  
 相馬 でも、なんでナイフ？ 全然わかりません。  
 倫佳 え？  
 光 ナイフなわけじゃないじゃん。何言ってるんの、光。  
 相馬 はは、はは。そっか、私何言ってるんだろ。  
 相馬 ねえ、なんで知ってるの？  
 光 ……すみません。取ってきます。  
 光、退場。  
 倫佳 え、取ってきますって何を？ すごい顔してたけど。  
 中田 何だろう。  
 相馬 まあ、待ってたら答えは分かるでしょ？  
 倫佳 あの、相馬さんは肉体的にも女になっちゃったってことですか？  
 剛力 あんまりそういうのは触れない方が……  
 相馬 女になる？ 私は生まれたときから、女だよ。  
 中田 パターン田！  
 倫佳 パターン田？ ……女の人を愛してしまっちゃったって感じですか？  
 剛力 だからダメだって。  
 相馬 同性愛もいいけど、私は経験ない。  
 中田 パターンの？ ……亡くなった恋人は男の人だったってこと？  
 倫佳 誰の恋人？  
 相馬 相馬さんです。（相馬の鼻をさす）  
 倫佳 （指をのけて）今はいないし、過去別れた恋人が亡くなったってこともない。  
 中田 じゃあ、あの蒼くて美しい話はどこに行っちゃったんですか？  
 倫佳 蒼くて美しい話？  
 相馬 ブルー、相馬蒼の青い物語。  
 相馬 あおい？ すみません。  
 中田 相馬蒼の青い物語。相馬さんが一つ上の先輩と恋に落ちて、絵を交換する約束をするんです。だけど、約束の前に恋人はトラックにはねられて

相馬 死んじゃうんです。以来、蒼い世界しか描けなくなった相馬そう、じゃなくて、あおい。  
 相馬 なんじゃそりゃ。はははははは！ 面白い！ 青いモチーフの作品は多いけどね。  
 剛力 そこに真実はないんですか？  
 相馬 相馬ブルー……。  
 相馬 真実の私は大して面白くなってごめん。  
 倫佳 いつの間にか戻ってきている光。  
 倫佳 光、あれ、嘘だったの？  
 光 いや、私、そう聞いたんだけどな。  
 倫佳 誰に？  
 光 だから、それは言えないって。  
 倫佳 やっぱり乗杉だろ？ あの適当蟹股妄想野郎！  
 松丸 形見のヒメリンゴ折ったし。  
 中田 いや、形見じゃないから。相馬さん女だし、恋人は死んでないし、ここに死体も埋まってないから。  
 剛力 結局、何が本当なんだ？  
 相馬 乗杉の片思い。  
 松丸 ああ。  
 中田 あわれ乗杉。  
 相馬 ごめんなさい。ちゃんと確認しないまま、みんなにシェアしちゃって。  
 相馬 あるよね。ちよっとだけ盛ったつもりが、嘘になっちゃうこと。  
 光 え？  
 相馬 で、それ、なんで君が持ってるの？  
 倫佳 缶をおずおずと差し出す。  
 相馬 これ、昨日、草取りのエリア分けしたとき、この缶が出てきて。  
 倫佳 ああ、それで。ありがとう。（缶を開けてナイフを出す）  
 相馬 まじでナイフ？  
 倫佳 懐かしい。  
 中田 銃刀法違反です！  
 相馬 そんな大げさな。  
 剛力 鉛筆とか削ってたんですか？ 油絵の削りだしとか？  
 相馬 そうだね。そんな風にも使ってた。だけど、一番は、世界を壊すため。  
 中田 ぷっ、厨二病。  
 相馬 そう、ずっと厨二病患ってたな……世界が全部敵に見えたからね。  
 倫佳 いじめられてたんですか？



倫佳 知ってるわ。  
 剛力 僕は相馬さんの話を聞いて勇気をもらいました。と、同時に、今、真実を明かさないとどうする！とも思いました。  
 光 本当ごめんなさい、許してください。  
 中田 なんて光先輩が謝ってるんですか？  
 倫佳 なにに、その真実。  
 剛力 僕、告白します。  
 倫佳 いいよ、もう知ってるから。私たちは多様性を認めてるよ。  
 剛力 いえ、止めません。あえて自分をさらすんです。たえうまういかなくても、この苦しみを芸術の肥やしとするんです。  
 中田 すごい！相馬さんから吸収してる！  
 剛力 うん！  
 倫佳 じゃあ、さっさとやっちゃって。  
 倫佳、剛力の水筒を岩の上に置く。  
 剛力 ありがとうございます。（水筒を開けて、水を飲む）  
 倫佳 突然のキッス！  
 松丸 ふはあ。  
 剛力 熱烈！  
 倫佳 行きます。  
 中田 いけいけ！  
 倫佳 黙って見てあげましょうよ。先にいろいろ言うの、可哀想ですよ。  
 剛力 いけ、ゴリキー！  
 中田 僕は、大好きです。中田鋭子さん！  
 一同 ……ええええええっ！  
 中田 なんじゃそりや。私、水筒なの？  
 剛力 好きです。中田鋭子さん！あなたのそのぶすけた表情筋ゼロの頬に浮かぶ、かすかな微笑みが！  
 中田 ぶすけたってなに？ぶすってこと？  
 倫佳 ぶてくされてるってことじゃない？  
 中田 何ですかそれ。  
 光 ごめんなさい、誤情報でした！彼は人間も愛せるみたい！  
 剛力 なしなし！今のなし！テイクツ。（絵を出して）俺のモデルになれよ！  
 倫佳 モデル？過激すぎるやろ。  
 剛力 又ードではない！僕、相馬さんみたいなアーティストになりたいんです。  
 倫佳 抽象画のモデル？ご愁傷様。  
 中田 悪くない！

倫佳 悪くないんだ。  
 松丸 お似合い！  
 剛力 え、マジ？やった！（飛び跳ねながら中田のところまで行き、絵を渡す）どうぞ。  
 剛力、中田に絵を渡す。  
 中田 これ私？  
 剛力 はい。  
 中田 ありがとうございます。  
 中田 はい！  
 剛力 そういえば、水筒はもういいんですか？  
 中田 何ですか？  
 剛力 はい。  
 松丸 松丸、剛力に水筒を渡す。  
 中田 あ、どうも。  
 剛力 私さ、カッブル見ると刺したくなるんだよね。  
 倫佳 妬みですか？  
 倫佳 黙れ、ゴリキー！ああいうホルモンで生きてる人たちってさ、好きな人できたって大騒ぎして、付き合ったら、あれが悩みこれが悩みって巻き込んで、別れたら別れたで、また大騒ぎして、傍にいるの地獄だね。  
 中田 話題は自由です。  
 倫佳 そりやそうだけど、でもでも、田中さんたち二人は全然そんなこと思わない。幸せ願っちゃう。なんでだろう？  
 中田 中田です。  
 倫佳 ごめん。  
 剛力 どうも。私、承認欲求ゼロだから。  
 倫佳 そういうこと。  
 剛力 僕は、この愛を中田さんと芸術にだけ捧げられれば十分です。  
 松丸 ブラボー！  
 倫佳 ねえ、光。七星の周りってそういうホルモン系の人ばっかじゃん。光、よく付き合えるよね？  
 光 いや、全然上手に付き合えてないから。  
 松丸 自分はシャッター下ろします。ガラガラガッシャーン。  
 中田 まあ、予定調和の会話も公式さえ覚えれば、関係維持には楽なのかもしれませぬね。  
 倫佳 公式！？絶対無理だ！

#13 溢れ出る真実

華恋、七星中庭に入ってくる。

七星 みんないるよ。

華恋 いいんだって。

光 七星！

倫佳 出た。必殺ホルモン系女子。

華恋 ボランティア部の人たち、やっほ！

華恋、テンション高く、話しかける。  
ボランティア部一同、顔を引きつらせている。

倫佳 (ほぞっと) 呼び捨て？

華恋 ボランティア、お疲れ様。今日めっちゃビジユいい！

倫佳 ……華恋の方が可愛い！

華恋 知ってる！

倫佳 (中田に) 公式、違くない？

中田 (倫佳にグーサインをする)

七星 (華恋を指して) なんかテンション高いよね。

光 翼君とうまくいったから？

七星 それがさ、納豆巻き好き最低って、思い切り振ったの。

華恋 納豆大嫌いなんだもん。

松丸 蛙化。

倫佳 蛙？

松丸 はっ！

中田 一瞬で冷めることです。

華恋 剛力！ いつもブルーさんみたい。

剛力 白浜さんこそ、ハートの女王みたいに怖い！

松丸 はっ！

華恋 は？ 喧嘩売ってんの？

倫佳、華恋と剛力の間に入る。

中田 剛力先輩はやる必要なかったと思いますよ。JK喋り。  
剛力 やって見たかった！ ごめん。

七星が無理矢理華恋を連れていく。

光 ごめん、七星。あのね、さっき相馬さんっていう卒業生が来たの。それ

でね……

華恋 みんな、注目！

倫佳 (ほそっと) 何様！

一同、息をのむ。華恋、岩の間から出した野良猫を見せる。

一同 可愛い！

倫佳 子猫だ！ 可愛い。

七星 なにそれ。

松丸 知ってます！

華恋 そうなの？ この子、だいぶ前から中庭に迷い込んだの。私、時々、

餌やってたんだけど、そろそろ処分されるんじゃないかなって心配にな

って。でも、うちじゃ餌えないからさ。

七星 なんだ、子猫か。

光 ごめん、七星。(焦って) ナイフがあつたし、華恋、腕に傷があつたか

ら。

華恋 (アームカバーを外し腕の傷を見せて) これ？ この子、なかなか懐い

てくれなくてさ。

光。ごめん、七星。変な勘違いしちゃって。

松丸 猫は、自分が連れて帰ります！

華恋 ほんと？ ありがと。

七星 ごめん、ボランティア休んで。

倫佳 え？ 部長は初デートの思い出に浸るおばあさんを介助したんでしょ。

中田 一九七五年、大学生と肩を並べて食べたかつぱ巻き、ってね。

倫佳 素敵な話だよ。さすが部長。

剛力 感動しました。

松丸 プラボー！

倫佳 どういうこと、光。なんでそんなことになってるの？

七星 私がそのおばあちゃんってこと？

倫佳 そういうこと？

七星 なんで？ なんでそんなことになってんの？

倫佳 え？ 七星が悪いんじゃないの。インスタに、スリラーでこうやって撮

ったやつあげてたじゃん。

七星 あげたの？

華恋 ごめん。

中田 アカウントのつとつてまで。

華恋 面白くない？ 寿司食いてえ。

松丸 それは罪です。

華恋 罪って、ノリじゃんノリ。  
 松丸 (シャッターを閉める仕草をして) ガラガラガッシャーン。  
 華恋 ねえ?  
 七星 ……え?  
 華恋 みんなやってんじやん。(七星に)ねえ? 剛力。  
 剛力 乗っ取りを?  
 中田 私はしません。  
 華恋 そうですか。ごめんね、七星。……七星?  
 倫佳 七星?  
 七星 部活サボったのは私が百パー悪い。みんな、ごめん。でも、なんで? そんな嘘つく必要あった?  
 光 七星がみんなに責められちゃうと思ったし、本当に華恋がリスカしてるって思ったの。  
 華恋 ああ、これ?  
 倫佳 リスカ? 大丈夫?  
 華恋 いや、猫!  
 松丸 リストキヤット! はっ!  
 華恋 おお。ウケる。  
 七星 いや、待って、分かんない。なんで、嘘? 私が来れないっていうだけで良かったんじゃないの?  
 倫佳 それはね、乗杉の説教地獄から私たちを救うためなんだよ。  
 七星 わざわざスシラーまで出して。  
 中田 (立ち上がり) 七星先輩。  
 七星 何?  
 中田 社会福祉協議会は登録してますよね。  
 七星 なにそれ。  
 中田 いや、大丈夫です。  
 光 (中田に)ごめん。  
 倫佳 え、ちょっと待って、ちょっと待って! それも全部嘘だったってこと?  
 七星 ええ、ガチ騙された。ウケる!  
 華恋 光、華恋のことも、勘違いで済むレベルじゃないよね? あのとき、光なんて言った? 距離置け…勘違いって言えば、許されると思ってない?  
 華恋 私のことって何? 光、なんて言ったの?  
 七星 ごめん、華恋は黙ってて。ねえ、光。このインスタのアカウント、見覚えある? ルーチェ。  
 一同、七星に近づき、インスタを見る。  
 光 つくつくぼうし、無償奉仕、草ぼうぼうの中庭奉仕。抜け目ないし、口

先だけだし、やっているのは私だし。  
 ガラクタ、ガタガタ、不満過多。ガラクタなのにポランティア? 困ったガラクタ、あなた方。  
 あなたの期待に応えたい。だけど正解分らない。私の話つままない。誰も私に興味ない。  
 嘘つき傷つき自暴自棄。断崖絶壁存在意義。これが潮時人生末期。  
 「ごめん、ルーチェ? 私、知ってるよ。この子、二年生の松丸千映! まつまルーチェ。」  
 七星 これ松丸さんが投稿したの?  
 松丸 自分、インスタやってません。承認欲求ないんで。  
 倫佳 え、違うの? いや、このガラクタ、ガタガタ、あんたでしょ? 自分はガラクタ片づけた。けど、ルーチェなんて知りません。  
 松丸 イマイチ!  
 中田 違うか? ルーチェ…。あ、相馬さんが言ってた名前だ。  
 倫佳 あ、エクアドルの画家。  
 剛力 っことは、相馬さんの投稿?  
 中田 どう見ても女子高生の投稿でしょ。  
 倫佳 分かってるよ、ボケただけだし。でも、ルーチェってなんだったつけ?  
 七星 ねえ、光。  
 倫佳 あ、光だ。え、光?  
 剛力 岡崎さん?  
 光、ナイフを自分に突きつける。  
 光、やめて! それじゃ嘘つきになる!  
 倫佳 私はずっと嘘つきなの。だからもう嘘つきの自分を殺すの。  
 倫佳 だめだよ。相馬さん悲しむよ。  
 中田 世界を壊すために使うなって!  
 七星 ……また、嘘?  
 倫佳 七星、やめて。光、死んじやう。  
 七星 私、嘘、大嫌いなんだよ。  
 倫佳 七星は絶対嘘ついてないって言うの? おならが出ちゃったとき、私だつたら、自分はしてないって言うよ。  
 七星 そういうことじゃないでしょ。  
 倫佳 めっちゃ綺麗好きさいけど、光はありがとって言われたくて、ポランティアやってんだよ。七星はさ、受験のためじゃん。まあ、私もだけに。それは、嘘ついていることにならない? 嘘満載の志望理由書大学に

七星 送って、嘘つきじゃないの？

倫佳 嘘じゃない。

光 光は誰かのために嘘ついたんだよ。

七星 違う！ 誰かのために嘘をついたんじゃない。全部自分のため。

倫佳 そんなはずない！

光 ごめんね、倫佳。私、倫佳に優しくされても全然嬉しくない。

倫佳 なんて？

華恋 なんてそんなひどいこと言うの。意味わかんない。

光 私は、七星と対等に話せる人間にならなかったの。

倫佳 ねえ、なんで私じゃだめなの？ なんで？ なんで？ 私がガラクタだから？

光 ごめん。でも、私こそガラクタ。馬鹿で大嘘つきの一番のガラクタ。対等に話せる人間って、対等に話してたじゃん。私はずっと本音で話してるって思ってた。

七星 ずっと不安だった。七星、怒ってないかなって。私の話つまんないんじゃないかなって。

光 そんなの友達って言える？

七星 七星、ちよっと待ってよ！ 光は七星みたいに強くないだけじゃん。友達でいたくて頑張ってたんだよ。

倫佳 友達って頑張ってるもん？

七星 頑張っちゃう人だっているんだよ。

倫佳 私は光がなんでも話してくれてるって思ってた。

七星 私もそんな風に話したかった。けど、七星、いつつも華恋の方がっかり見てるから……。

光 私のせい？

華恋 いや、違うの。全部自分のせい。本当にごめんなさい。

光 あ、相馬さんに言ってた大嘘つきの彼女って、自分のことだったんだ。

倫佳 倫佳先輩。

中田 なにそれ。

七星 もう、どうしたら嘘が止まるのか分かんないの。

光 それも嘘？

光 ナイフを落とす。

七星！

華恋 ごめん、どこまでが嘘か分からないって思ったら、もう信じられない。自分も嘘は嫌いです！ でも、嘘をつかない人はいない。だから、責められない！

七星 私は嘘をつかない。

華恋 ふーん。

七星 少なくともつきたくない。自分の本当の気持ちが分からなくなるから。大切な人にも嘘をついてほしくない。

光 ……大切な人？

七星 光、自分の本当の気持ち、分かる？

中田 ……嘘で、見えなくなってる？

光、号泣。七星、ナイフを靴にしまう。

七星 やっぱ、今は、無理。ボラ部のみんな、今日は部活サボってごめん。じゃあ。

光 待って、七星！ お願ひ、チャンス頂戴。もう嘘つかないから。

七星、立ち止まるが、振り返らずに去る。

華恋 ちよっと七星？ なんか、私のせいで、ごめんね。七星も、「とりあえず今は無理！」ってことだと思っから。光、頑張れ！

華恋退場。

中田 うわあ、最強。

倫佳 ねえ、光、私は光の話好きだよ。嘘ついちゃう気持ちも、なんか分かるし。無理して七星たちと付き合う必要もない気もするけど……って、私に言われても嬉しくないの。

中田 倫佳先輩、そんなこと言ったらだめです！ 光先輩、私は！ 私は、頑張ってるんだよ。相馬さんの物語、私たちがやる気にかせるためだったんですよ。

光 ……自分が信じた自分が本当の自分！

松丸 ……世界は自分の目で見ると、バイ相馬蒼。

剛力 ……もう、嘘つかないんですよ。私たちに信じさせてください。

中田 岡崎さんのその力、創作に使って欲しいです。

剛力 まんまるな光、戻ってこい！

倫佳 ……ごめんなさい。みんな本当にごめん。

光 そうだよ。(三人に) ねえ。

倫佳 (倫佳に) 酷い言い方しちゃってごめんね。ありがとう。こんな私のために、ありがとう。

倫佳 そうだよ、一番のガラクタめ！

#14 生きる光

夏休み初めの早朝。びっぴり高校中庭。草取りの理由はなくなったというのに、なぜか、ボランティア部員は草取りをしている。

光 我等苦多 がたがた 絡み方 みかた（見方・味方）で変わる 私の世

界 いつか見つかる？ 本当の光

野村涼馬・作「Inspiration」が流れる。

幕